

Q 1-1

難易度 A 時間の目安 1分00秒

法別表第1に危険物の品名として掲げられていないものは、次のうちどれか。

1. 過酸化水素
2. 硫黄
3. 赤りん
4. ナトリウム
5. プロパン

A 1-1

1 月 日 2 月 日 3 月 日 4 月 日 5 月 日
Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒

5. 法別表第1に定める危険物は、固体または液体のいずれかです。気体であるプロパンは、引火性を有するため危険はありますが、法令上は危険物には該当しません。

Q 1-2

難易度 B 時間の目安 1分30秒

法別表第1に掲げる危険物の性質と品名の組合せで、次のうち誤っているものはどれか。

1. 酸化性固体・・・・・・・・・・過マンガン酸塩類
2. 可燃性固体・・・・・・・・・・マグネシウム
3. 自然発火性物質及び禁水性物質・・・・・・・・アルキルリチウム
4. 引火性液体・・・・・・・・・・動植物油類
5. 自己反応性物質・・・・・・・・・・過酸化水素

A 1-2

1 月 日 2 月 日 3 月 日 4 月 日 5 月 日
Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒

5. 第5類である自己反応性物質には、有機過酸化物やニトロ化合物などが該当します。過酸化水素は、酸化性液体であり、第6類に分類されます。

Q 1-3

難易度 B 時間の目安 1分30秒

法別表第1に掲げる危険物の類別、性質及び品名で、誤っているものを組合せたものはどれか。

	類別	性質	品名
1.	第1類	酸化性固体	過塩素酸塩類
2.	第3類	可燃性固体	マグネシウム
3.	第4類	引火性液体	動植物油類
4.	第5類	自己反応性物質	硝酸エステル類
5.	第6類	酸化性液体	過酸化水素

A 1-3

1 月 日 2 月 日 3 月 日 4 月 日 5 月 日
Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒

2. 第3類は、自然発火性物質及び禁水性物質です。マグネシウムなどの可燃性固体は、第2類に分類されます。

Q 1-4

難易度 A

時間の目安 1分30秒

法令上、危険物に関する説明について、次のうち誤っているものはどれか。

1. 危険物とは、法別表第1の品名欄に掲げる物品で、同表に定める区分に応じ同表の性質欄に掲げる性状を有するものをいう。
2. 危険物の状態は、1気圧、温度20℃において固体又は液体である。
3. 危険物を含有する物品であっても、政令で定める試験において政令で定める性状を示さなければ危険物に該当しない。
4. 危険物の区分として、第1類から第6類までの6つの類に分けられている。
5. 不燃性又は難燃性でない固体の合成樹脂製品は、危険物に該当する。

A 1-4

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒

5. 不燃性又は難燃性ではないという点から、危険物に該当するかどうか分類されるわけではありません。

Q 1-5

難易度 A

時間の目安 1分30秒

法別表第1備考について、次のうち誤っているものはどれか。

1. 液体とは1気圧において、20℃で液体、または20℃～40℃において液体状のものをいう。
2. 引火性固体とは、ゴム糊等で、引火点が-21℃未満のものをいう。
3. 固体とは、液体、気体以外のものをいう。
4. 第一石油類とは、アセトン、ガソリン、その他1気圧において引火点が21℃未満のものをいう。
5. 気体とは、1気圧において20℃で気体状のものをいう。

A 1-5

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒

2. 引火性固体とは、1気圧において引火点が40℃未満のものをいいます。

Q 1-6

難易度 A

時間の目安 1分30秒

法に定める危険物の品名について、次のうち誤っているものはどれか。

1. 二硫化炭素は、特殊引火物に該当する。
2. ジエチルエーテルは、第1石油類に該当する。
3. 軽油は、第2石油類に該当する。
4. 重油は、第3石油類に該当する。
5. シリンダー油は、第4石油類に該当する。

A 1-6

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒	Time	分 秒

2. ジエチルエーテルは、引火点が-45℃と非常に引火性が高いという特徴をもつ特殊引火物です。

Q 1-7

難易度 A 時間の目安 1分30秒

法に定める危険物の品名について、次のうち誤っているものはどれか。

1. 二硫化炭素は、特殊引火物に該当する。
2. アセトンは、第1石油類に該当する。
3. 軽油は、第2石油類に該当する。
4. 重油は、第3石油類に該当する。
5. クレオソート油は、第4石油類に該当する。

A 1-7

1 月 日 2 月 日 3 月 日 4 月 日 5 月 日
Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒

5. クレオソート油は、重油と同じく、第3石油類に該当する代表的なものです。

Q 1-8

難易度 A 時間の目安 1分30秒

法令上、次の文の（ ）内に当てはまる語句はどれか。
「特殊引火物とは、ジエチルエーテル、二硫化炭素その他1気圧において、発火点が100℃以下のもの又は（ ）のものをいう。」

1. 引火点が-40℃以下
2. 引火点が-40℃以下で沸点が40℃以下
3. 引火点が-20℃以下
4. 引火点が-20℃以下で沸点が40℃以下
5. 沸点が40℃以下

A 1-8

1 月 日 2 月 日 3 月 日 4 月 日 5 月 日
Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒

特殊引火物とは、ジエチルエーテル、二硫化炭素その他1気圧において、発火点が100℃以下のもの又は（引火点が-20℃以下で沸点が40℃以下）のものをいう。よって、空欄には、「引火点が-20℃以下で沸点が40℃以下」が入るため、正解は4になります。

Q 1-9

難易度 A 時間の目安 1分30秒

第4類の危険物について、法別表第1に掲げる品名とそれに該当する物品の組合せとして、次のうち誤っているものはどれか。

	法別表第1の品名	物品
1.	特殊引火物	二硫化炭素
2.	第1石油類	ガソリン
3.	アルコール類	ジエチルエーテル
4.	第2石油類	軽油
5.	第4石油類	ギヤー油

A 1-9

1 月 日 2 月 日 3 月 日 4 月 日 5 月 日
Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒 Time 分 秒

3. ジエチルエーテルは、引火点が-45℃と非常に引火性が高いという特徴をもつ特殊引火物です。

Q 1-10

難易度 A 時間の目安 1分30秒

アルコール類については法別表第1備考において、組成等を勘案して規則で定めるものを除くとされている。次の文のA～Bに当てはまる語句の組合せはどれか。

「アルコール類とは、1分子を構成する炭素の原子が（ A ）までの飽和1価アルコール（変性アルコールを含む。）をいう。ただし、この飽和1価アルコールの含有量が（ B ）未満の水溶液を除く。」

	A	B
1.	1個から2個	50%
2.	1個から3個	60%
3.	3個から5個	50%
4.	3個から6個	60%
5.	5個から7個	60%

A 1-10

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
	Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒

アルコール類とは、1分子を構成する炭素の原子が（ A 1個から3個 ）までの飽和1価アルコール（変性アルコールを含む。）をいう。ただし、この飽和1価アルコールの含有量が（ B 60% ）未満の水溶液を除く。

よって、Aには、「1個から3個」、Bには、「60%」の語句が入るため、正解は2になります。

Q 1-11

難易度 A 時間の目安 1分30秒

法別表第1で定める動植物油類について、次の文の（ ）内のA及びBに当てはまる語句の組合せとして、正しいものはどれか。

「動植物油類とは、動物の脂肉等又は植物の種子若しくは果肉から抽出したものであって、1気圧において（ A ）が（ B ）未満のものをいい、総務省で定めるところにより貯蔵保管されているものを除く。」

	A	B
1.	引火点	200℃
2.	引火点	250℃
3.	引火点	300℃
4.	発火点	250℃
5.	発火点	300℃

A 1-11

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
	Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒

動植物油類とは、動物の脂肉等又は植物の種子若しくは果肉から抽出したものであって、1気圧において（ A 引火点 ）が（ B 250℃ ）未満のものをいい、総務省で定めるところにより貯蔵保管されているものを除く。

よって、Aには、「引火点」、Bには、「250℃」の語句が入るため、正解は2になります。

Q 2-1

難易度 A 時間の目安 1分30秒

法令上、危険物取扱者の責務に関する次の条文について、() 内の A、B に当てはまる語句の組合せとして、正しいものはどれか。

「甲種危険物取扱者または乙種危険物取扱者は、危険物の取扱作業の立会いをする場合は、取扱作業に従事する者が法第10条第3項の(A) の技術上の基準を遵守するように監督するとともに、(B) これらの者に指示を与えなければならない。」

	A	B
1.	貯蔵または取扱い	必要に応じて
2.	位置、構造または設備	保安の確保に支障を生ずる場合は、
3.	貯蔵または取扱い	保安の確保に支障を生ずる場合は、
4.	位置、構造または設備	必要に応じて
5.	貯蔵または取扱い	災害の未然防止のため

A 2-1

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
	Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒

甲種危険物取扱者または乙種危険物取扱者は、危険物の取扱作業の立会いをする場合は、取扱作業に従事する者が法第10条第3項の(A 貯蔵または取扱い) の技術上の基準を遵守するように監督するとともに、(B 必要に応じて) これらの者に指示を与えなければならない。

よって、Aには、「貯蔵または取扱い」、Bには、「必要に応じて」の語句が入るため、正解は1になります。

Q 2-2

難易度 A 時間の目安 2分00秒

法令上、製造所等における危険物取扱時の危険物取扱者の立会いについて、次のうち正しいものはどれか。

1. 危険物施設保安員が危険物を取り扱う場合は、すべて立会いを必要としない。
2. 乙種危険物取扱者が取り扱うことができる危険物以外の危険物を取り扱う場合は、甲種又は当該危険物を取り扱うことができる乙種危険物取扱者の立会いが必要である。
3. 危険物取扱者以外の従業員が危険物を取り扱う場合は、所有者の指示があれば、立会いを必要としない。
4. 丙種危険物取扱者は、取り扱うことができる危険物の取扱作業についてのみ立ち会うことができる。
5. 危険物取扱作業に立ち会うことができる危険物取扱者は、6か月以上の実務経験が必要である。

A 2-2

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
	Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒

1. 危険物施設保安員であっても、甲種又は該当する危険物を取り扱うことができる乙種危険物取扱者でなければ、立会いを必要とします。
3. 所有者の指示の有無にかかわらず、危険物取扱者以外の従業員が危険物を取り扱う場合は、立会いが必要です。
4. 立会い業務を行うことができるのは、甲種又は該当する危険物を取り扱うことができる乙種危険物取扱者です。丙種危険物取扱者は、立会いをすることができません。
5. 立会い業務については、6か月以上といった実務経験は必要ありません。

Q 2-3

難易度 A

時間の目安 2分00秒

法令上、危険物取扱者について、次のうち正しいものはどれか。

1. 甲種危険物取扱者のみが、危険物保安監督者になることができる。
2. 乙種危険物取扱者は、危険物施設保安員になることができない。
3. 丙種危険物取扱者は、特定の危険物に限り、危険物取扱者以外の者が行う危険物の取扱作業に立ち会うことができる。
4. すべての危険物取扱者は、一定の期間内に危険物の取扱作業の保安に関する講習を受けなければならない。
5. 危険物取扱者以外の者が製造所等において危険物を取り扱う場合、指定数量未満であっても甲種危険物取扱者又は当該危険物を取り扱うことができる乙種危険物取扱者の立会いが必要である。

A 2-3

1	月 日	2	月 日	3	月 日	4	月 日	5	月 日
	Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒		Time 分 秒

1. 危険物保安監督者になることができるのは、甲種危険物取扱者又は乙種危険物取扱者です。
2. 危険物施設保安員には、資格や実務経験は必要とされません。
3. 丙種危険物取扱者は、危険物の種類にかかわらず、立会いをすることはできません。
4. 保安講習の受講義務があるのは、危険物取扱者のなかでも、現に製造所等で作業に従事している者に限られます。
5. 危険物取扱者以外の者が製造所等において危険物を取り扱う場合は、指定数量にかかわらず立会いが必要となります。